

大牟田市立明治小学校

1 本校のESDの特徴

本校周辺には、介護老人福祉施設、幼稚園・保育園、多目的交流施設、公園、病院等の施設がある。工場地域も抱えており、市のリサイクル施設やリサイクル関連企業がある。このような校区環境の中で、本校はエネルギー環境教育、福祉教育を中心にESDに取り組み、エネルギーや自然環境との関係性、ひとや社会との関係性を認識し、「かかわり」や「つながり」を尊重できる子どもの育成を目指している。

また、平成27年度よりエネルギー教育モデル校、平成30年度よりシニア校として「持続可能な社会の構築に向けたエネルギー教育」をテーマに3ヶ年の実践を行っている。生活科や総合的な学習の時間だけでなく、理科・社会科などの教科の時間においても、関連する単元でエネルギー環境の視点をもちながら横断的・総合的な学習となるよう計画を立てて取り組んできた。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	エネルギー環境		福祉	
1年	めいじと なかよし だいさくせん1 (緑のカーテンなど)	6月 生活	めいじと なかよし だいさくせん2 (幼保小交流など)	11月 生活
2年	めいじのすてき みつけたい (学校のまわりの探検など)	5~1月 生活	つくろう あそぼう くふうしよう (異学年交流など)	6月 生活
3年	めぎせ エネルギー博士	9~12月 総合	高齢者に昔のことを学ぼう	1~3月 総合
4年	くらしの中のエネルギー	9~12月 総合	車いすとバリアフリー	4~7月 総合
5年	ぼくたち、私たち環境探検隊	5~10月 総合	ふれあいを広げよう	4~12月 総合
6年	エネルギーのまち 大牟田	9~12月 総合	未来への扉を開こう	1~3月 総合

3 特徴的な活動事例

(1) ねらい

○自分たちの生活が多様なエネルギーに支えられていることやエネルギーの消費が環境に影響を及ぼしていることを実感としてとらえ、エネルギーを大切にし、環境を保全しようとする態度を養う。

○自分たちにできる省資源・省エネルギーについて考え実践することで、思考力・表現力・コミュニケーション能力を高める。

○高齢者や体の不自由な人をはじめとする身近な人々に目を向け、自分にできることは何かを考えるとともに、すべての人が安心して暮らせる社会を築いていこうとする態度を養う。



(2) 主な実践

① 1年生「ひとつぶのたねから（緑のカーテン大作戦）」

生活科の学習の一つとして、緑のカーテンづくりに取り組んだ。2階のベランダまでネットを張り、「ぐんぐん育て、元気に伸びろ」を合い言葉に日々の手入れに進んで取り組んでいくことができた。日なたと日陰の温度の違いや水をまくとさらに涼しく感じることを体感することができた。



② 4年生「くらしの中のエネルギー」

単元の初めに、夏休みを利用して「エコワット」による消費電力調べと「ふくおかエコキッズチェックシート」の取り組みを行った。学校でも、エコワットを使い、電力の消費量を調べる活動を継続して行った。化石燃料を利用した発電や環境にやさしいクリーンエネルギーについて調べ学習を進めた後、「九電みらい財団」の体験型環境教育で温暖化の現状や森林の役割について学んだ。



③ 5年生「ふれあいを広げよう」

地域の施設のイベント「それいゆ祭」に参加し、高齢者と交流を行ったり、大牟田市の長寿社会推進室の方々による「認知症絵本教室」を体験し、意見交流をしたりした。

さらに、調べ活動を進めた後、高齢者のために自分たちにできることをグループで考え、実際にグループホームに出向き、高齢者と交流を楽しんだ。「地域の高齢者にも気軽に挨拶ができるようになった」という子どももいた。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・例えば5年社会科の「食料生産を支える人々」の学習で、食料の生産や輸送にも多くのエネルギーを必要としていることなど、教科の内容との関連を意識した指導計画を立てたことで、ものの見方、考え方を広げることができた。
- ・緑のカーテンづくりやエコチェックシートなど、省エネ、省資源の活動に取り組んだり森林や川の学習をしたりして、エネルギーと環境を一体としてとらえ、自然や環境の保全に対する意識を高めることができた。

○課題

- ・体験活動を通して課題や現象について知ることはできてきたが、その背景を理解するまで、掘り下げた学習には至らなかった。